

中学校第3学年
特別の教科 道徳



意見が対立する事例を考える際に、自分の考えを端末上で可視化し、自分とは異なる考えの生徒と対話することで考えを深める。

中学校第3学年 特別の教科 道徳「内容項目C 遵法精神、公德心」

■主題名

法やきまりの在り方とは

■ねらい

法やきまりの意義を理解し、自らの義務を果たすことで、よりよい社会をつくろうとする態度を育てる。

■教材の概要 「二通の手紙」（出典：「明日への扉」学研教育みらい）

ベテランで信頼も厚い動物園の入園係の元さん。ある日、幼い姉弟が入園時刻を過ぎて、保護者を伴わずやって来た。元さんは、姉弟の事情を察して規則を破って入園させたが、閉園時刻を過ぎてても姉弟は戻って来ず、搜索の結果、姉弟は無事に発見された。数日後、姉弟の母親から謝罪と感謝の手紙が届く。上司から懲戒処分の文書（手紙）も受け取った元さんは二通の手紙を見比べ、感謝の言葉を述べて退職した。

■学習指導計画

導入

「きまりがあって嫌だと思ったことは何か。」

展開

- ・「思いやりときまりは両立すると思うか。」
- ・教材の範読

- ・「あなたが元さんの立場だったら、幼い姉弟を動物園に入園させるか。」
複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考える。
- ・「きまりの中に優しさはないのか。」

- ・この話から、どのようなことを自分に生かせるか。

終末

- ・本時の授業を振り返る。

■指導上の留意点

「きまりがあって嫌だと思ったことは何か」という事前アンケートの回答結果をもとに、きまりによって窮屈な思いをした生徒を意図的に指名する。

各自、端末上のハート形のワークシートを数直線のようにして、「入園させる」と「入園させない」のどちらの考えに近いのかといった自分の考えを表す。自分とは異なる考えの生徒と積極的に対話するよう促す。

きまりがあって窮屈な思いをした経験を思い出させ、そこには誰かの優しさがあったことに気づかせる。

個人で振り返った後、全体で共有し、さらに考えを深められるよう留意する。

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿

【学習活動の場面】

「あなたが元さんの立場だったら、幼い姉弟を動物園に入園させるか」と教師が発問し、生徒たちは、端末のハート形のワークシートで、数直線のようにして、自分の考えが「入園させる」「入園させない」のどちらの考えに近いかを表した。入園させる理由の多くは、姉弟の気持ちに応える「優しさ」ということであったが、教師はさらに「きまりの中に優しさはないのか」と問いかけた。

【子供の「深い学び」の姿】

きまりの中に優しさはないのか？という発問に、生徒たちは次のように考えを深めた。

○当初のAさんの考え

保護者同伴でないと入園させないというきまりは可哀そうという理由で「入園させる」としていた。

○Bさんの考え（Aさんと反対の意見）

「ルールを守らず幼い姉弟に怪我等があったら大変」という意見を述べた。

○Cさんの考え

「どんなきまりにも、きまりを作成した思いが込められているから守らなければならない」という考えを示した。

○BさんとCさんの考えに出会った後のAさんの考え

自分の意見が変わったことを端末に表しながら意見交換を続け、最後には「自分の周りにあるきまりの優しさに気付いて、それを守ることが自分のためにもなる」と考えた。

【当該指導での「深い学び」】

教材を活用して、端末上のハート形のワークシートで対立する考え方のどちらに自分の考えが近いかを可視化しながら、様々な立場の意見を聞くことにより、法やきまりの他律的な捉え方を越えて、人の心情を想像できる思いやりの心に関わっていることに気付かせ、法やきまりの意義を理解し、自らの義務を果たすことで、よりよい社会をつくろうとする態度を養うというねらいに迫ることができたと考えられる。



■指導上の工夫とICTの利活用

①全体で意見交換する対象を一つに絞り込む。

* 共通の課題をみんなで検討していくことにより、同一の対象に関する多様な情報を集めることができる。

②各自端末を示しながら、考えの異なる友達と対話し、多様な意見に触れる活動を位置付ける。

* 端末を使って自分の意見を可視化し、その理由を友達と対話し、共感したり、比較したりする活動を通して、自らの考えを深めていく契機とすることができる。

* 紙だと一度書いてしまうと、自分の考えが変わっても変更が難しいが、自分の考えが変わるごとに、端末上のハート形のワークシートを数直線のように自由に動かせるため、友達の考えを聞いて、自分の考えが変わった場合は、すぐに反映させることができる。

* 教師は、手元の端末で、全生徒のハート形の数直線を確認し、意見が変わった生徒について意図的に指名することなどが可能となる。

学習指導要領や解説との関連

中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2の(4)

(4) 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること。その際、様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設けるとともに、生徒が多様な見方や考え方に接しながら、更に新しい見方や考え方を生み出していくことができるよう留意すること。